

## 時間外労働の上限規制が与えた幸福度への影響\*

大野陽輝<sup>a</sup>

### 要約

「全国就業実態パネル調査」からパネルデータを作成し、時間外労働の上限規制による労働者の幸福度への影響について、差の差分析を行った。1つ目のモデルでは処置群を改革対象の職種、対照群を改革対象外の職種と設定し、分析を行った。2つ目のモデルでは、処置群を改革対象の職種かつ労働時間に制約がかかった個人、対照群を改革対象外の職種かつ改革対象であれば労働時間に制約がかかるほど働く個人と設定し、分析を行った。改革対象外の職種は医者である。分析から得られた主な結論は以下の通りである。個人ダミーを入れたモデルでは、有意となる結果は得られなかった。一方、個人ダミーを入れていないモデルでは有意となった。しかし、個人ダミーを入れていないモデルは個人ごとの異質性を制御できていないため、誤って有意となった可能性が高いと考えられる。

JEL 分類番号： I31, J88, K31

キーワード： 幸福度, 働き方改革, 差の差分析

---

\*なお、本論文に関して、開示すべき利益相反関連事項はない。

<sup>a</sup> 東京経済大学経済学部4年 21e0264@tku.ac.jp

## 1. イントロダクション

### 1.1. 研究動機

これまでの労働と幸福度に関する研究では、労働時間は幸福度や仕事満足度などの主観的厚生を下げる事が明らかにされてきた。大竹・佐野(2007)は幸福度の決定要因として労働変数がどのような影響を及ぼすかを分析し、労働時間が長くなるほど幸福度は低下すると結論付けている。馬(2009)は、男性の正規労働者の場合、労働時間の上昇に伴い、仕事満足度が有意に低くなることを示した。本研究で使用するデータでは仕事満足度と幸福度の間には相関係数が 0.42 と正の相関があるため、労働時間の上限規制があった場合は幸福度が上がる事が示唆される。また、時間外労働の上限規制は労働者の意向とは独立して行われているため、労働者の好みなどに依らない外生的な労働時間が幸福度に与える因果効果を識別できる。

### 1.2. 分析の流れ

時間外労働の上限規制は幸福度にどのような影響を与えるのであろうか。この問いに答えるため、本稿では時間外労働の上限規制が行われた職種とそうでない職種を比較し、幸福度への影響の分析を行っている。特に、労働時間が上限規制により、幸福度への影響があるのか、そしてどの程度影響するのかという点に関心がある。

## 2. 分析内容

### 2.1. 分析手順

2019年4月から2024年4月まで働き方改革の対象外であった医者を対照群とみなした場合の処置群を、同期間に働き方改革の対象となった職業のうち、医者と良く似た職業とする。医者とよく似た職業は以下のように定めた。はじめに個々人の医者らしさの傾向スコアを計算し、職種ごとに平均を取った。次に、各職業の傾向スコアの平均を医者の医者らしさの傾向スコアの平均で割り、比を計算した。最後に、この比の値が大きい順に、医者のサンプル数を超えるまでサンプル数を数え、それらを合わせて医者と良く似た職業と定義した。上記の手続きより、医者が対照群となる処置群はファンドマネージャー、その他芸術家、管理職（その他）となった。

### 2.2. 変数の説明

説明変数には幸福度と相関を持つと考えられるコントロール変数と、政策による影響を表すダミー変数を用いた以下の4つのモデルの推定を行った。

・モデル1（個人ダミーなし）※表の1列目にあたる

説明変数は年齢、労働時間、年収、年ダミー、転居ダミー、結婚ダミー、子供ダミー、最低賃金未満の時給ダミー、対医者比較職業ダミー、政策対象年ダミーと対医者比較職業ダミー

の交差項である。

・モデル2（個人ダミーあり）※表の2列目にあたる

説明変数はモデル1の変数に個人ダミーを加えたモデルである。

・モデル3（個人ダミーなし）※表の3列目にあたる

説明変数は年齢、労働時間、年収、年ダミー、転居ダミー、結婚ダミー、子供ダミー、最低賃金未満の時給ダミー、政策で労働時間が制約された人のダミー、政策対象年ダミーと政策で労働時間が制約された人のダミーの交差項となる。

・モデル4（個人ダミーあり）※表の4列目にあたる

説明変数はモデル3の変数に個人ダミーを加えたモデルである。

被説明変数となる幸福度は1～5の離散値を取る。次に説明変数について説明する。年齢は16～91の間の値、労働時間は週当たりの労働時間数、年収は単位が万となっている。最後にデータから作成したダミー変数について説明する。年ダミーについては、データが2020年の場合に1を取るダミーとデータが2021年の場合に1を取るダミーの2つ作成し、時間経過による効果を制御している。転居ダミーについては、前年から居住地域が変わった（都道府県をまたいだ転居が見られた）データの場合に1を取るダミーを作成し、転居した時の幸福度の変化を制御している。結婚ダミー、子供ダミーは結婚していれば、1を取り、子供が1人でもいれば、1を取るダミーである。最低賃金未満の時給ダミーについては、個々人の年収から平均時給を計算し、それが最低賃金よりも下回っている場合は1を取るダミーである。誤回答の可能性があるデータの影響を取り除くためにこのダミーを追加している。対医者比較職業ダミーは医者とよく似た職業として設定された職種では1を取るダミーである。政策対象年ダミーは働き方改革が施行されている2020年・2021年では1を取るダミーとなる。そして、政策対象年ダミーと対医者比較職業ダミーの交差項を回帰式に追加し、この変数が有意であれば、労働時間に規制があった職業の労働者の幸福度に影響があったということになる。政策で労働時間が制約された人のダミーは医者に似た職種の人の労働時間が働き方改革施行前に上限規制を超過していた場合に1を取るダミーとなる。そして、政策対象年ダミーと政策で労働時間が制約された人のダミーの交差項を回帰式に追加し、この変数が有意であれば、労働時間に規制があった労働者の幸福度に影響があったということになる。個人ダミーは個人の異質性を制御するために追加するが、人数から1を引いた数の分、説明変数が作られることになる。

モデル1とモデル2では、交差項の係数に関心があり、上限規制で労働時間に制約がかかった職種の幸福度に有意な影響が出ているかを確認する。モデル3とモデル4でも、交差項の係数に関心があり、上限規制で労働時間に制約がかかった個人の幸福度に有意な影響が

出ているかを確認する。モデル3とモデル4を追加することで、上限規制が対象となった職種の労働者の中で、労働時間に制約がかからない労働者の影響を考慮することができる。これら4つのモデルを重み付き最小二乗法で分析する。重み付き最小二乗法については、複数年にわたる調査において、似たような属性の人の中で、調査を引き続き受ける人と調査を受けず、脱落する人がいるそのまま分析すると、調査に残りやすい人に偏った分析結果になる。それは全員が調査に参加し続けた時の分析ができていないため、ウエイトを逆数にして分析に用いる事で、全員が調査に参加し続けた場合に近い状態で分析ができ、信ぴょう性のある結果が得られやすい。

### 2.3. 結果

表内の記号はそれぞれ以下の通りである。+: 10%水準で有意, \*: 5%水準で有意, \*\*:1%水準で有意, \*\*\*:0.1%水準で有意。

表 1 差の差分析の結果

	個人ダミーなし	個人ダミーあり	個人ダミーなし	個人ダミーあり
(Intercept)	3.18858(0.16544)***	8.91451(7.18308)	2.98187(0.14581)***	9.23703(7.19039)
年齢	-0.00463(0.00221)*	-0.22582(0.27527)	-0.00527(0.00216)*	-0.23748(0.27551)
労働時間	0.00450(0.00162)**	-0.00372(0.00354)	0.00403(0.00174)*	-0.00380(0.00352)
年収	-0.00013(0.00004)**	0.00003(0.00012)	-0.00011(0.00004)**	0.00002(0.00012)
t2020	0.02360(0.11284)	0.55129(0.54823)	0.23342(0.06616)***	0.59160(0.54710)
t2021	-0.07729(0.11245)	0.73750(0.82402)	0.13143(0.06552)*	0.79056(0.82451)
最低賃金未満の時給ダミー	-0.06451(0.08806)	-0.06402(0.16850)	-0.06494(0.08828)	-0.06420(0.16838)
転居ダミー	-0.33767(0.27788)	0.08097(0.24633)	-0.32940(0.27637)	0.08060(0.24584)
結婚ダミー	-0.24993(0.07324)***	-0.57739(0.27115)*	-0.24777(0.07341)***	-0.58999(0.27140)*
子供ダミー	-0.17838(0.07203)*	-0.35471(0.29793)	-0.18613(0.07232)*	-0.37148(0.29446)
対医者比較職業ダミー	-0.30329(0.10585)**	3.39232(1.82121)+		
政策対象年ダミー_対医者比較職業ダミー	0.26067(0.12467)*	-0.00317(0.11189)		
政策によって労働時間が制約された人のダミー			0.06875(0.11315)	2.89212(4.47839)
政策対象年ダミー_政策によって労働時間が制約された人のダミー			0.03179(0.16270)	-0.10055(0.13629)
Num.Obs.	1362	1362	1362	1362
R2	0.076	0.895	0.071	0.895
R2 Adj.	0.069	0.642	0.064	0.643

以上の分析から、処置群を改革対象の職種、対照群を改革対象外の職種と設定し、かつ個人ダミーが含まれていないモデルで改革による労働時間の上限規制は幸福度に正に有意な影響を持つことが明らかになった。しかし、個人ダミーが含まれていないモデルは個人ごとの異質性を制御できていないため、改革と個人の異質性の相関によって有意となった可能性が高い。改革による労働時間短縮が個人の幸福度を向上させたとは言えないだろう。

引用文献

野村 旭, 2018. 働き方が仕事満足度・生活満足度に与える影響. Works Discussion Paper No.21.

大竹文雄, 佐野晋平, 2007. 労働と幸福度. 日本労働研究雑誌. 第558巻, pp.4-18.

宗 健, 2018. 労働時間が仕事満足度・幸福度に与える影響. 株式会社リクルート住まいカンパニー 住まい研究所, 経営情報学会春期全国研究発表大会.

馬欣欣, 2011. 日本における仕事満足度の決定要因に関する実証分析—正規雇用者と非正規雇用者の比較. 日本労働研究雑誌 労働政策研究・研修機構 第607巻 第12号, 137.

鶴見哲也, 藤井秀道, 馬奈木俊介, 2021. 幸福の測定 ウェルビーイングを理解する. 中央経済社, 日本.

大石繁宏, 2009. 幸せを科学する 心理学から分かったこと. 新曜社, 日本.

厚生労働省, 地域別最低賃金の全国一

覧. <https://www.mhlw.go.jp/content/11200000/001140686.pdf>

厚生労働省, 都道府県労働局, 労働基準監督署, 2019. 時間外労働の上限規制わかりやすい解説. <https://www.mhlw.go.jp/hatarakikata/img/overtime/000463185.pdf>

厚生労働省, 2022. 自動車運転者の労働時間等の改善のための基準の一部改正等について. <https://www.mhlw.go.jp/content/001179482.pdf>